

希望の21

自治 共生 平和

土台を掘り崩し 創造へ向かう 自治の力

12月4日、沖縄の大田昌秀知事は、米軍基地の用地強制使用の代理署名の執行命令を拒否、首相が知事を相手取って「職務執行」を請求する訴訟を起こし、国と県が法廷で争うことになった。

大田知事は言う。「住民の暮らしを知りもしない政府首脳が、安保を「再定義」し、米軍の駐留を受け入れようとしている。そうなるかわれわれとしては自分たちが責任を負えない21世紀の若い世代にまた同じ苦しみを与えてしまうことになる。だから自分には、自分たちの土地は殺戮の場、基地に使うのではなく、人間の暮らしに役立つような生産の場にしたい、という人々の意志を表明する責任があるのだ」。人々が平和に人間らしく豊かに暮らすこと、そして平和に貢献するものとしてあることを価値として、その実現をめざして、自分たちのあり方、生き方を自分たちで決めようという、自治と民主主義の原則への確信であり、それをもって国の政策を変えようという決意だ。それが平和を実現する自治であり、人間らしく生きたいという価値の選択としてある以上、どこにいても私たちはその決意と確信を共有している。であれば私たちの議論は、「安保がなくなったら日本は核武装するかもよ」というような、主体性を抜いた議論ではない。「米国が内向きになって安保なんていらんといったら困るから、オカシイといわれてるところは直しといった方がいい」などと初めに安保ありきでもない。原則は、自分たちの地域のあり方を、国のあり方を、そして世界の人々が、女たちが、ともに平和を目指して生きていくための道筋をどうつくるのか、だからだ。

ありふれたことだけかけがえのない希望がここにある

月刊 Dec.1995.

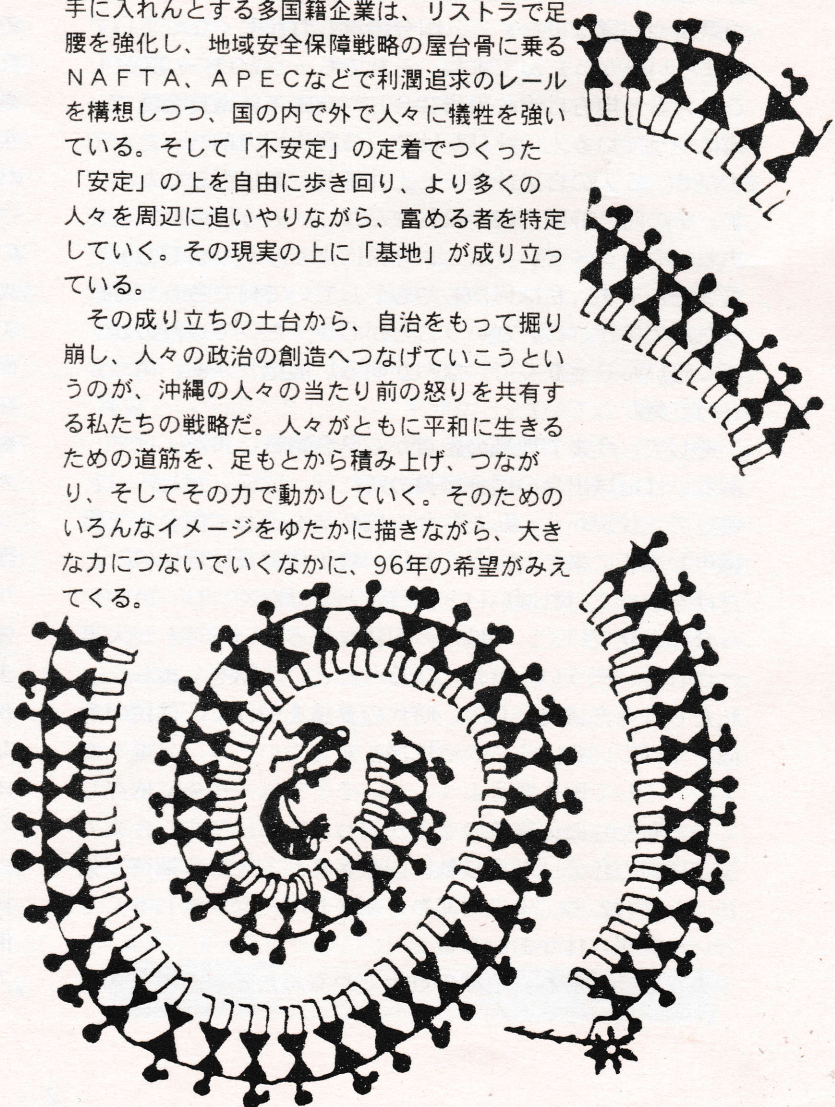
創刊
3号

1部200YEN
定期購読1年3,000YEN

東京都日野市旭ヶ丘2-19-8
美成社マンション501金子方
TEL 0425-85-5473
郵便振替：0100-1-97125「希望の21世紀」

94年、ナイ国防長官の「東アジア戦略報告」は、アジアは中国や北朝鮮などという不安定がある、と危機感をあおりながら、米国との2国間同盟をより強固にしようとしている。同盟国中最大の「思いやり」で日本政府が拠出している年間30億ドル以上、沖縄の年間予算を超える膨大な経済支援に象徴される同盟国政府の支援の上に、そして基地の町に住む人々の拒絶の上に、「基地」が存在する構造は成り立っている。米国は内に経済格差を拡大し、その人々に生きがたさを強いながら、軍事超大国であり続けようとしている。世界市場でさらなる自由を手に入れんとする多国籍企業は、リストラで足腰を強化し、地域安全保障戦略の屋台骨に乗るNAFTA、APECなどで利潤追求のルールを構想しつつ、国内で外で人々に犠牲を強いている。そして「不安定」の定着でつくった「安定」の上を自由に歩き回り、より多くの人々を周辺に追いやりながら、富める者を特定していく。その現実の上に「基地」が成り立っている。

その成り立ちの土台から、自治をもって掘り崩し、人々の政治の創造へつなげていこうというのが、沖縄の人々の当たり前の怒りを共有する私たちの戦略だ。人々がともに平和に生きるための道筋を、足もとから積み上げ、つながり、そしてその力で動かしていく。そのためのいろんなイメージをゆたかに描きながら、大きな力につないでいくなかに、96年の希望がみえてくる。



いま、この人に聞きたい!

これからは 自治体が反撃していくとき!

佐藤ひろこさん(中野区議会議員、大阪府出身)



てきてこそ、本物の市民の政治が作っていきけるんじゃないかなと思いました。それで、よっしゃみんな帰って地域でがんばろう、地域でいゆる全国政党に括られない議員がいっぱい出てくることから政治のあり方を自治という形に変えていこうじゃないかと…。おぼろげながらその時に気づきました。元気ができましたね。

自治体は国の出先機関ではない

90年以降、地方議員のあり方からすれば、女性が善戦している所が多くて、今までの男性中心の権力構造から違が出てきたようでもあります。そんなに暗い状況じゃない。そして今年には戦後50年で結果的にはさまざまなことが出ましたね。私も一坪反戦地主ですが、沖縄の基地用地地主たちの拒否が、今回はさらに大田知事の拒否ということになりました。国に対してきっちり「国の言いなりじゃないぞ」と自治体として声をあげてきてますよね。それから核兵器の違法性について、国は「触れない」ということで広島・長崎市長に圧力をかけたけれども、二人の市長は、今年、国際社会ではっきり核兵器はダメだと述べました。それに対して外務省も叱りつけることはできなくて、追従せざるをえない発言をした人もいた。外国人登録の原票開示の問題では、練馬から声がおこり、中野、杉並でも在日の人たちと一緒に私たちも運動していますが、法務省は開示すると言っています。そもそも非開示を通過している書面や外国人登録要項とか、外登法の下で実際にさまざまに在日の人たちを縛りつけている法律にもならない「通知」を、誰にも見せないことにしている。法律じゃないもので人間を縛るといふ法治国家にもあるまじきことを平気でやっているわけです。それに対して自治体には「個人情報保護条例」というのがあって、個人情報には当事者は見ることができるとされているし、「情報公開の条例」では、自治体が保有する情報はすべて住民に開かれるとうたわれています。通達には自治体は受け取っているものなのに、法務省が見せられないと言うから見せられない。原票も個人情報なのに法務省が非開示と通達したから見せられない。自治体の条例が上なのか、国の法律でも明示されていない、あるかないかの確認もできない通達の方が効力があるのか、というのが実際問われるべきことです。自治体の条例は住民の選んだ議会を通過したのですが、それが法務省の官僚が作った一片のお手紙によって効力がまったく無くなってしまおうというのは、地方政治を本当にないがしろにして

いる、議会制民主主義をないがしろにしているということです。最初は原票を開示か非開示かという問題から入っていったんですが、もうそれだけじゃない、ここにも今の日本の政治のひどいあり方が表れている。国政からでなく、地方からだから、それは変えていけると思います。で、区議会で地方の条例の意義を認めないのかと問いかけたんですが、案の定「機関委任事務で…」という答です。機関委任事務は国に従うと言うが、7割が委任事務だと言われてますね。そうすると何のために自治体があり、住民が選挙で選んだ議会があり市長がいるのか、ということです。沖縄の場合もここが問題ですから、やはり国の機関委任事務のあり方を問い直し、変えるべき部分があることがわかってきました。

戦後50年目にして、核や沖縄や外登法など戦後積み残し、目をつぶってきた、そして人権を侵害してきた問題が表われてきた。自治体が自治のあり方をしっかり確立して反撃していかないといけない。自治体の条例の方が上だろ、と。国政をあずかる人たちよりもより住民と密着している地域政治こそ、住民の意向を反映できます。はっきり意義申し立てをしていかないと、いつまでも国の方針が変わることに期待してしまって、住民運動そのものも、国会に出かけてとり囲もうとか、そうは言っても大変だし人数的にも太刀打ちできないし、というところで、どどんつぶれて消耗感だけになってしまう。それでは逆に思うツボじゃないかな。

自治体固有の問題にぶつかった住民は、「おかしいぞ」と感じて、うねりが出てきてもいる。地域の政治がそれを受けとめ、国の出先機関としての市長とか議員ではない形でやっていかなくちゃいけない。政党政治というのはそういう意味ではあくまでも国政レベルから考えられたものです。だから全国政党は、国政で政党の権力をいかに伸ばすかということで国政選挙を戦い、地域レベルでも頭数をどう増やすかということで戦われてます。全国政党では、そもそも地方政治の自治を確立していこうなんてことは無理なんじゃないかな。全国政党に括られない議員、それこそ地域の住民自治のあり方を考える議員がいっぱい出ることが地域の自治意識を強くし、国にも立ち向かう力になるんじゃないかと思えます。沖縄には昔から大衆党という独自の政党がありますが、そういうものがやはり独自の住民の政治意識の受皿となり拠り所となってきた部分があるんじゃないですか。各地域がそういうものをもっていかないと。

系列化でなく住民に近い議員と運動を育てる

ふだん身近で議員同士議論したり、動いているのは「23区民自治の会」というのがあって、区部の無所属の女性議員が中心になって集まっています。もとは社会党籍の方が多かったんですが、私は始めから無所属でした。そもそも革新区政の中野で、社共にも組まない市民グループとして障害者や反核・脱原発の運動に関わっていました。革新だからといって何も文句を言わないのはおかしいし、住民として、大きな団体とか組織とかが政治を動かしているというあり方、それでしか動かないというあり方に対して、違

った目線で政治に問いかけを行ないたいと考えていました。会派に属さず一人でいますが、役職になれないとかいろんな決定に参加できないことがあっても、それはたかが知れていて、住民はもっと疎外されてる。議会の中ではずれてる人の存在意義もあると思うし、他の人と組みたいと思えば政策で組んでやっていけると思う。しんどいけれど、逆にそれぞれの運動があるわけだから強みもある。議会の情報はとればとるほど結局根回し政治に陥るので、最近では市民の知らない根回しは私も知らなくていい、その方が強いんじゃないかと思っています。できるだけ住民に近い立場にしよう。

97年の都議選は、ぜひ出るという人がいたら出したいなあという気はします。清掃問題が大きいですね。焼却行政のあり方を変革していける、異議申し立てしていける人がいいなと思っています。既成政党ではなく住民運動をやっている人が出られたらいい。大変でしょうけど、選挙戦は。

しかし参院選でも思ったんですが、私がある候補を支持すれば、そこに私の票がプラスされるという考え方では、実際違うだろうと思います。個別それぞれの問題でやっている人たちが、そこで私と一緒にやってることをかかって下さって支持して下さっているわけです。だから、住民が考え、住民のたくさんの方がこの人がいいと支持したら、じゃあ私も支持する、私も動こうか、ということになるのであって、既成政党のように、私の支持者へこの人に入れてというのは逆じゃないかと思えます。上から系列化する意識があったら全国政党と同じじゃないかと。まだ見えてないんですが、国政選挙を戦うのは、政策研究会などで地方の政策を練りあい、地方レベルの自治の政治を考えあう中で、意気投合し、そこで市民運動が情報交換し、結びついていけるのであればいいかなと思います。社会党がつぶれちゃったからその代わりという発想ではなく、まず地方議員の数を増やし、それから「市民新党にいがた」みたいに県議員をとっていくというように。系列化されていない議員が地方に増えれば、国政も変わっていかざるを得ない。国政を戦おうという人はそういう地方議員に対して働きかけなくちゃいけないわけですから。国会-県会-市会議員という形の上からの系列化じゃなくて、地方議員を上から、それから県議があって、国会議員はむしろ住民からは一番遠いんだから、国政部分の権限はできるだけ少なくしていいんじゃないかと思えます。そのように変わっていくためには、地域にもっと目をむけて、国政に左右されない市民運動や地方議員をいっぱい育てていくということ。何年先の夢かもしれませんが、この方が結構早いんじゃないですか。だんだん増えているようですよ。住民ってすばらしい人がいっぱい埋もれていますよ。

インタビューまとめ：花崎 晶

自治をつくるには、ちいさな1人の地域住民の視点で、大胆に国にも官僚にも異議を申し立て、変更を迫っていくラディカルな発想がいるようです。頼もしい議員の1人という感じで、出会いがうれしかったです。

『核実験はやめてほしい』そう伝えたくてここにいる
～トークセッション・オン・ザ・ストリート
(仏大使館前にて)

広尾の新しいトレンドィー・スポットとして、定着しつつある(?!『フランス大使館前』。一人で歩くには、ちょっと寂しげな高級住宅街を抜けると、そこには、夜な夜な反核の思いを抱いた若者が集まるスペースがある。幅1メートル程の歩道に、毎晩、入れ替わり立ち替わり誰かが寝泊りしている。夜風も冷たくなった12月2日、集まった10人ほどの若者につくり隊のメンバーが合流しての座談会となった。

「ここに来たのは、2ヵ月前だから、そんな時何考えていたのかって言えば、やっぱりここへ来れば、何か変わると思ってたわけ。ここで一生懸命怒鳴って、世界中で核実験反対運動を盛り上げれば何とかなると思ったのね。今は少し考え方がちがって、(すぐに変えるというよりも)日本人に忘れないでほしいと、核実験があるということ。核実験反対運動のための土俵造りをやってるって感じがな。」

「ぼくは、3回目の核実験の後に来たんですけど、ここに初めて来た時の印象は、なんて言うか、『反対運動』なんていうと殺気だった雰囲気があるじゃないですか。そういうのがなくて、個人レベル参加できるという感じでした。」

「最初、来た時は、TVで実験の映像見て、怒りの気持ちですね。ただここへ来たら、バカになっちゃって、就職したくなくなっちゃって。ホントイ人たちなんですよ、ここの人たちは。ここには真面目に(抗議に)来てるんですけど、けっこう来ると楽しんですよ。楽しくないと続かないんでしょうね。」

「私は、抗議というより、卒論のテーマにしようと思って、(週刊誌の)『SPA!』で読んだときは、どっかの団体が動員してるんだろうと思ったんですけど、来てみたら本当に普通の人居るんで、それからはまってしまいました。ここに来て、ものを考えるようになったっていうのは(自分にとって)大きいですね。」

「昨日初めて来ました。前から(核実験のことは)気になってたんですけど、(実験が)全部終わってからじゃ後悔すると思って。だんだんニュースの量も少なくなって来てるし、どうなってるのかなと思って。友達と二人で来たんですけど、私たちだけかと思ったら、たくさんいるのでびっくりしました。普段学校なんかじゃ、全然話題になってなくて、生徒会にもいったんですけど、全然ダメで、ここに来たら(同じ気持ちの人が)いたのでうれしかったです。」

「(以前から反核運動などには関わりがあったので)6月のシラク発言の後すぐ来たんですけど、最初、核実験が始まる前って言うのは、機動隊と対峙するような場面もあって、やっぱり緊迫してたんですけど。実際に核実験やられて、これからどうやって抗議しようかと思ったんですけど、このまま泊まっちゃうのもいいなと思って。家に帰るのも面倒くさいし。中には新左翼系の活動家で継続的に関わっている人もいるけど、ここに泊まりに来てる人は、活動なんて初めての人が多いですね。居ても立ってもいられなくなって小金井から自転車に乗ってきた人なんかもいて。」

ここに来たから(核実験を)止められるとは思えないけど、どれだけ意思表示できるかってことが重要でしょうね。日本人は意思表示しないじゃないですか。ここはいるだけで抗議の意思表示をできるってところは今までのスタイルとちょっと違いますね。既成概念にとらわれない新しい運動をつくりたいんですよ。デモやったりシュプレヒコールをあげたりだけだと、どうしてもいきなりは入ってこれないじゃないですか、こういう(ただいるだけという)形だったら誰でも参加できて抗議できますから、垣根も低いし。」

「今年大学を卒業したんですけど、卒論でタヒチの(過去の)実験の被害なんかについてとりあげたんです。だから被害を受けた人への謝罪と補償をフランス政府にやってほしいと思ってたんですけど、そういうことがなにもないままに、また被害を受ける人が出るのかと思うと、なにもしないでいられない気持ちになって、最初は一人でシラクさんに手紙書いたりしてたんですけど、一人じゃやっぱり心細いし、誰かと力をあわせられないかと思って、いろんなところに電話したりして、STOP核実験連絡会に参加するようになりました。」

この人たちは皆とてもいい人だし、感動してます。ここまで(自分が抗議活動)やってこれたのも、皆に会ったおかげだと思ってます。誰も(実験に)反対してる人がいないと思われるのは嫌だから、続けていきたいです。最近思ったのは、すぐに分かってくれなくても、今ずっと抗議をしていけば、後になってから核実験はいけないということに分かってくれるかもしれないから、今がんばろうかなと思ってます。」

「なぜここに来てるかっていうと、もちろん核実験反対っていうことあるんですけど、それだけじゃなくって、内面的なものもありますね。日本人は表現するのが下手ですよ。世論調査じゃ8割くらいの方が反対してるのに、なかなか形になって表わされていないですよ。ここに来て座り込みするだけが表現じゃないけど、不買運動とか抗議のFAX送るとか、いろいろ表現の方法ありますよね。いくら頭のなかで考えていても、なにもしないということは、Yesと言ってることと同じことだと思うから、Noだと思ってるんだったら、Noと言ってほしい。」

この場が面白いと思うのは、初めて運動に関わる人が多いってのが。そういうところから勉強することもあるし。今まで運動関わったことのないような人たちが、入ってこれるような、左翼的なイメージを敬遠しているような人とも一緒にできるような運動をつくっていく事が、僕たち希望21にとっても必要なことだと思います。」

(仏大使館前住人と化している、つくり隊のメンバー石井くん談)

住んでいる地域も職業もバラバラだけど、共通している点は、核実験に対する「素朴な」怒りだと感じた。共に生きるとか共に闘うと言う時に、そう言う人たちがこの「素朴な」感情を忘れてしまっていたとしたら、「共に」はできないだろう。誰もが最初の一步を踏み出すときは、きっとスゴク単純で素朴な思いからなんだろう。多くの人がその思いを自分の中だけで不完全燃焼しているんじゃないだろうか。でもほんの少しだけがんばって一步踏み出して見れば、そこにはけっこういい出会いが待っていたりするかもしれない。(インタビュー構成=希望21・つくり隊;菅原"ニョキ"和之)





巻町の民主主義の実践にエールを送ります！

新潟県の巻町の住民投票の記録をTVで見た。用地取得でとん挫していた巻町原発建設計画。町有地売却で建設可能という計画変更により、今年初め町長が凍結解除を宣言。これに対して町民たちが「住民投票を実行する会」を結成し、町民自身が原発が必要かどうかを決めることこそ「民主主義」だ、と住民自主管理による住民投票を呼びかける。議席22の大半が原発推進派の町議会と推進派の町長は「議会制民主主義」の手続きは踏んでいる、これは「民主主義への挑戦」「町民が勝手にやってる違法な住民投票」だ、と電力会社とともにボイコット運動を展開する。にも関わらず、住民投票運動は町民の共感を得ていった。

その結果、投票率は45%、2人に1人が投票し、その95%が反対を表明した。この票は町長選での推進派町長の得票を上回っていた。その後4月の町議選で、住民投票条例の制定を公約にあげた候補者は、女性3人をトップに12人が当選。町議会の勢力地図を大きく塗り替えた。自ら「反対運動」と「住民投票運動」の一線を引くことで住民運動の広がりを見守っていた「反対派」や革新陣営とも合流しつつのたたかいたったという。地縁・血縁・知人・カネの政治風土とは無縁の選挙運動が人々の支持を得たのだ。原発建設という争点は同時に、民主主義とは、自治とは何か、誰が政治を決めるのか、を問うていた。「実現する会」の田畑護人さんという。「大多数が、選挙違反なんてしたくないんですよ。買収なんかされたくないんですよ」。本来はこういう選挙であるべきだというのが人々の思いなのだ。また菊池誠さんは「思い切って正論ができれば人々はそれを支持する、という確信を得た。民主主義の正論ですもの、みんなで決めるという」と言っていた。その後、巻町では、住民投票条例が制定され、12月、町長が辞職した。

新潟で、沖縄で、原発という、安保・基地という、平和を、生存を、人間が人間らしく生きていこうとするための基本を脅かそうとするものとのたたかいのなかに、私たちをつなげる原則をはっきり見る思いがする。そこに生き、生きたいと思う人々とともに、本来こうありたいと願う姿への信頼を力に、そこに住む人々が自ら未来を決めるということ。

全国津々浦々の地域に、その原則を積み重ね、そのいく百の支流を集めて大河になるがごとく、政治の潮流を形成する。大きな流れだけでなく、虫眼鏡でのぞけばひとつひとつがしっかり人間の顔をしている。そういう力を、各地ではぐくみつつ、知り合い、つながりあい、学びあっていきたいですね！

(石田 伸子)

希望の21世紀宣言

私たちは、現在のモノ中心の社会を、人間が人間らしく生きることのできる社会へとつくり変えていくことをめざします。

人間らしい社会一人と人が平等に、ともに助け合っで、人間が自然の一部としての本来の姿で生きることのできる社会を実現することこそが、人々の希望です。私たちはそのために、あらゆる領域で民主主義を徹底し、民主主義の実現をはばむものに対してたたかいます。

私たちは、世界に戦争と大国主義の不平等をもたらす憲法改悪を許しません。9条の理念の実態を日本からつくっていくことによって世界の平和と民主主義の実現に貢献していきます。国と国とが対等平等の関係にあり、人間らしく生きることが豊かさの尺度に、人々の在り方を人々が決め、どこも誰もほんとうに武力を必要としない国際社会の実現こそが、平和の実現です。

私たちは地域から国の進路、世界の在り方を決める政治的な力をつくっていきます。そのために、私たちの意思、知恵や力を結集し、互いの経験に学び合い、信頼を築き合いながら、自治の実現をめざします。何かに頼ることなく、広範な人々とともに、変革の力をつくり、その統一を推進することを自らの役割とします。

世界の現実を変えることそれは私たち自身のありかた、運動の在り方を変えることなくしては実現できません。私たちは自らを変え、人と人との関係を変えあうなかで、現実を変革していきます。本音を出し合い、あらゆる困難をともに克服し、成功や喜びを、そして失敗や悲しみをも共有し、助け合っでたたかいの輪を広げ、そのなかに新しい社会を準備していきます。

私たちは人間らしい社会の実現をめざし、世界の平和と民主主義を求める人々とともに、希望の実現に向けて進みます。

1部200円 定期購読をよろしくお願ひします！

年間購読料 3000 (送料込み) 郵便振替：00100-1-97125 「希望の21世紀」

月刊『希望の21世紀』 ●創刊3号 ●1995年12月25日 ●
発行 ●「希望の21世紀」全国調整委員会 編集 ●希望21・未来はみんなでつくり隊
連絡先 ●希望21・三多摩

東京都日野市旭が丘2-19-18美成社マンション501金子方
TEL0425-85-5473

●希望21・京都
京都府京都市中京区丸太町通柳馬場西入る鍵屋町75東洋ビル3FCOM京都気付
TEL075-212-2455 FAX075-212-2456

●希望21・未来はみんなでつくり隊
東京都杉並区高円寺北3-22-8大一市場208菅原方
TEL03-3310-4553 FAX03-3223-0468

●希望21・神戸
兵庫県神戸市灘区森後町2-1-7 斎原ビル302江口方
TEL&FAX078-843-7626

●希望21・大島
東京都大島町元町字小清水273尾形方

希望
21
century

